

第1章

君津市小中一貫教育について

1 小中一貫カリキュラムの導入

(1) 小中一貫カリキュラムの役割

○小中一貫カリキュラムによって、学習指導や生活指導での重なりや隙間を検証し直し、義務教育9年間の「学び」と「育ち」に連続性のある教育の推進に努め、一人一人に応じたきめ細やかな市立学校教育の実現を目指す。

○義務教育9年間を通した子供の理解を一層充実させることにより、いじめや不登校など、子供の心情にかかわる今日的な課題解決にあたる。

○小・中学校全ての教職員が9年間の連続性のある教育課程のもと、系統性を意識した学習指導や共通の指導方法について理解を深め学力向上を目指す。

(2) 小中一貫カリキュラムのとらえ

○「君津市小中一貫カリキュラム」は、義務教育9年間の児童生徒の「学び」と「育ち」の連続性を図るために編成されるカリキュラムである。

○小中一貫カリキュラムは、義務教育9年間の連続性・適時性を図りながら、一人一人の子供の学習状況に柔軟に対応できるカリキュラムである。

(3) 小中一貫カリキュラムの編成・運営・評価・改善

○「教育観」の共有

小・中学校の教員が、「学力観」・「指導観」・「評価観」等の「教育観」を共有することにより、指導の一貫性を図る。これにより「知識・技能」・「思考力・判断力・表現力」・「主体的に学習に取り組む態度」を身に付けるために、一層の授業改善を推進する。

○学習の系統を生かした授業計画

各教科の学習計画を立てるにあたり、学習の系統を参考にし、児童生徒の実態を把握した上で授業計画に反映させる。

○地域の特性を生かした小中一貫教育の実現

敷地や校舎を共有するなどの物理的な条件を満たすことがなくても、「君津市小中一貫カリキュラム」をもとに、地域の特性を生かしながら小・中学校双方が情報交換や連携をして、「学び」の連続性を重視したカリキュラムの編成・運営・評価・改善を図っていく。

○小・中学校間の積極的な連携

指導の連続性を保つために、定期的に小・中学校の教員が集まり、教科指導についての情報交換を行う。また、単元の内容によっては、中学校教員の専門性を生かして交流授業を行うなど授業の進め方について共通理解を図る。

○児童生徒のアンケート結果の活用

「家庭学習・生活時間・授業」に関するアンケートの活用等、児童生徒の実態を丁寧に把握し、個に応じた指導や小・中学校で連携した指導を実現する。

○全国学力学習状況調査や千葉県標準学力検査結果分析の共有

全国学力・学習状況調査や千葉県標準学力検査の結果分析を有効に活用しながら、継続的に授業改善を進める。さらに、授業評価の充実を図り、カリキュラムの評価・改善および授業力向上に積極的に活用する。



2 「学び」と「育ち」の連続性

(1) よりよい発達の区分に向けて

小学校6年間カリキュラム						中学校3年間カリキュラム		
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
低学年		中学年		高学年				

↓

小中9年間の継続的・計画的カリキュラム								
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
前期			中期			後期		
基礎づくり期			充実期			発展期		

「君津市小中一貫教育」では、「学び」と「育ち」の連続性のもと、義務教育9年間で一貫性のある学習指導や生徒指導を行っていく。

従来の6・3制では、いくつかの課題が見られる。学習面では、5年生から学習内容が増えるだけでなく、4年生までの学習を基盤として考えることが多くなる。そのため、中学校につながる学習内容につまずきが見られるという課題を生じている。児童生徒と教員との関わりという面においては、小学校は1日の生活を学級担任と過ごすことが多いが、中学校は教科担任制を行っており、様々な教員とかかわることが多くなる。児童生徒は、小学校から中学校への接続の部分で、学校生活の変化にとまどいを感じるが多くなる。生活面では、小学校高学年から思春期が始まり、仲間同士の評価を強く意識する反面、他者との交流に消極的な傾向も見られる。そして、この時期に問題行動が増えるようになり、学級経営に難しさが生じている。

そのため、本市小中一貫教育においては、特に小学校から中学校へつながる5年生から中学校1年生に重点をおき、小・中学校の教員が連携を取って指導にあたることにする。

そこで、この義務教育9年間を児童生徒の発達段階に着目して、君津市小中一貫教育では、「学び」と「育ち」の連続性を「4・3・2」の3つの時期に分け円滑に図れるようにしていきたい。

「君津市小・中一貫教育」における区分

- 第1期（小学校1年生～小学校4年生）
基礎づくり期…基礎・基本の定着を図る時期
- 第2期（小学校5年生～中学校1年生）
充実期…第1期で身に付けた基礎・基本の拡充を図る時期
- 第3期（中学校2年生～中学校3年生）
発展期…第2期までに身に付けた力の発展・充実を図る時期

（2）9年間の指導の重点

9年間の系統性を考えたカリキュラムの編成と指導内容や指導方法、指導体制の工夫改善により、基礎学力の向上や自ら学ぶ「主体性」の育成に向けた取り組みの重点的かつ効果的な実施が期待できると考える。

《指導のポイント》

○児童生徒の実態を把握する

全国学力・学習状況調査の結果や千葉県標準学力検査の結果から各学年の児童生徒の実態を把握し、課題となっていることを明らかにする。そして、これをもとに共通に指導する取り組み事項などを共有する。

○小学校から中学校への接続を滑らかにするための指導計画の見直し

小・中学校でそれぞれつまずきの顕著な指導事項を洗い出し、重点化する単元や教育内容の系統性、繰り返し指導や補充的学習を行う内容の整理等を行う。

○中学校の学習に向けた小学校段階からのスムーズな移行の手立て

中学校での学習は、どの教科においても小学校の学習内容を基盤としているため、学習の系統表を用いて授業計画を立てる。特に、数学、英語への不安感は大いいため、単元の系統図からステップを踏んで学習が進められるような工夫が必要となる。

○主体的・対話的な深い学びの学習活動を推進する

学びの過程において児童生徒が、主体的に学ぶことの意味と人生や社会の在り方を結び付けたり、多様な人との対話を通じて考えを広げたりすることが重要である。また、単に知識を記憶する学びにとどまることなく、身に付けた資質・能力が様々な課題の対応に生かせることを実感できるような、学びの深まりが重要になる。そこで、身に付けた知識や技能を定着させるとともに、多様な表現を通じて、教職員と児童生徒、児童生徒同士が対話し、それによって思考を広げ深められるような学習活動を推進していく。あわせて、ICT等も活用しながら学習の場を工夫していく。



○小・中の職員の交流連携を密にした指導体制の創意工夫を図る

小学校高学年に関しては、児童たちの抽象的な思考力が高まる時期であり、指導の専門性が求められる教科の指導の充実を図っていかなければならない。そのため、中学校への接続を見据えた指導体制の充実を図るために、学習内容に応じて中学校教員が小学校高学年の授業を行うなど交流連携を図っていく。

○小・中合同研修会の充実を図る

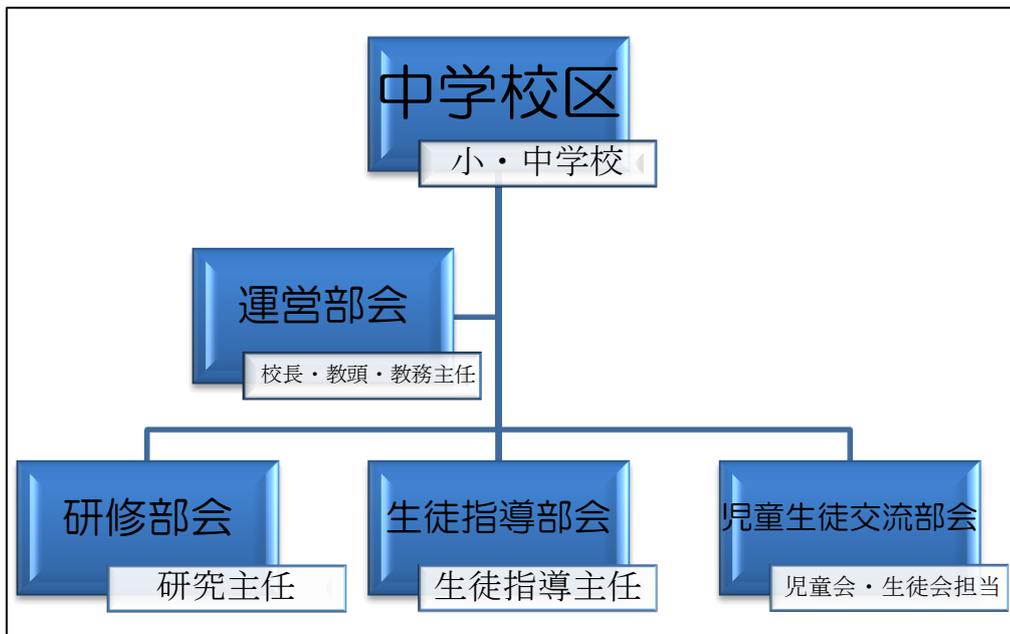
中学校区で小・中合同研修会を開催し、9年間を通じて育成を目指す資質・能力との関係から、各教科等や各学年の指導の在り方を考えるなど、学習指導の改善を図る。

3 君津市小中一貫教育推進組織

(1) 組織図

君津市では、下記のような組織をつくり、小中一貫教育を推進する。

(中学校区)



※運営部会…9年間の教育目標、目指す児童生徒像、教育課程など、学校運営に関する内容について協議・検討する。

※研修部会…9年間の「学び」の連続性をもたせる合同研修会の計画及び共通の指導事項などについて協議・検討する。

※生徒指導部会…9年間の「育ち」の連続性をもたせる生徒指導事項について協議・検討する。また、児童生徒の情報交換をする。

※児童生徒交流部会…児童生徒が交流を行う活動について計画・運営方法について協議・検討する。

(中学校区と教育委員会)



(2) コーディネーター一部会

中学校区ごとに総合的な学習の時間や特別活動等の時間を活用して行われる連携、交流、研修等を実施するため、情報交換や連絡調整を行う。また、市内全域にわたる小中一貫教育推進の計画を立て、各中学校区の活動を支援する。

(3) 君津市教育委員会の役割

①小中一貫推進のための支援、助言、指導

- ・小中一貫カリキュラム実施のための資料等を配付する。
- ・指導主事等が、各中学校区の特色や独自性を生かし、各学校の実状にあった支援、助言、指導を行う。
- ・連携を促進するための備品や施設等の整備を行う。

②小中一貫教育の啓発

- ・モデル地区による研究発表を行い、各学校へ啓発を行う。
- ・各学校の教職員や保護者、地域の方々に小中一貫教育に関する理解が深まるリーフレットや実践状況の便りを配布する。
- ・ホームページでの情報発信を積極的に行う。